

ジェネリック医薬品に関するアンケート調査の結果について

1 調査目的

当課ではジェネリック医薬品の安心使用を促進するため、平成 20 年度からジェネリック医薬品安心使用連絡会を設置・開催するとともに医療従事者や一般県民向けのセミナーやイベントの開催、医療機関のジェネリック医薬品採用リストの作成・公開をするなどの事業等を実施しているところであり、県民に対するジェネリック医薬品の印象や認知度等を把握し、今後の事業の参考としたいため。

2 調査方法

インターネットを利用したアンケート調査

3 調査期間

令和 6 年 10 月 16 日（水）～10 月 22 日（火）

4 回答者数

400 人（19～79歳の県内在住者）

5 結果概要

【ジェネリック医薬品の認知度】

- ・「よく知っている（23.5%）」「だいたい知っている（58.3%）」となり、県民の81.8%がジェネリック医薬品について認識していた。
- ・一方、「知らない」と回答とした人は、18～29歳（5.9%）及び30歳代（1.9%）のみであり、若年層でジェネリック医薬品についての認知度が低い傾向にあった。

【ジェネリック医薬品に関する内容について】

- ・「価格が安い（68.3%）」が最も広く知られており、次いで「先発医薬品の特許が切れたあとに、他のメーカーが製造し販売される薬（57.3%）」「先発医薬品と品質・有効性・安全性が同等（54.0%）」という結果であった。これらは、県ホームページやパンフレットで啓発している内容であり、半数以上の方が認識している結果であった。
- ・一方、「先発医薬品と添加物が異なる場合がある（19.8%）」、「先発医薬品より色や形、味など、飲みやすく改良されているものがある（13.8%）」など、患者が知ることでメリットとなる内容について認識が低いものもあった。
- ・また、年代別で比較をすると「国（厚生労働省）で承認された薬」であるということについて、30代では7割以上が認識している一方、18～29歳で約3割、60～79歳で約2割と認識が低い結果となった。

【ジェネリック医薬品について知りたいこと】

- ・知りたい内容については、「安全性（52.1%）」が最も多く、次いで「先発品との違い（47.9%）」、「効能・効果（43.8%）」の順となった。
- ・年代別で見ると、18～29歳及び40代は「安全性」、30代は「効能・効果」、50代は「先発品との違い」、60～79歳では「副作用」が最も回答者数が多く、年代によって知りたい情報に差が見られた。

【ジェネリック医薬品を勧められた経験の有無】

- ・回答者400人のうち、249名（62.3%）がジェネリック医薬品を勧められた経験があり、勧めた職種の多くが薬剤師（72.5%）、次いで医師（39.4%）であり、歯科医師は4.8%であった。

【ジェネリック医薬品を勧められた際の理解度】

- ・ジェネリック医薬品を勧められた経験がある人にその際の理解度について尋ねたところ、「十分に理解した（29.7%）」、「ほぼ理解した（51.8%）」と約8割の方が医療機関での説明で理解が出来たと回答した。一方、残りの2割は「理解できなかった」又は「十分な説明がなかった」との回答であった。

【ジェネリック医薬品の使用経験】

- ・回答者400人のうち、約8割に、ジェネリック医薬品の使用経験があり、若年層になるほど、「使用したことがない」と回答した割合が大きくなった。
- ・また、医療機関での説明による理解度が高いほど、使用経験の割合が高い結果になった。

【先発医薬品からジェネリック医薬品への変更の有無】

- ・先発医薬品からジェネリック医薬品への変更経験は約6割の方が経験ありと回答した。
- ・年代別で見ると、60～79歳が60.8%と最も高く、次いで40代（45.9%）、30代（40.7%）となった。18～29歳ではジェネリック医薬品への変更の経験は約3割にとどまった。
- ・また、医療機関での説明による理解度が高いほど、ジェネリック医薬品への変更経験の割合が高い結果になった。

【ジェネリック医薬品を使用して良いと感じたこと】

- ・ジェネリック医薬品への変更経験が有る方の約9割の方が「支払額が減った」と回答したほか、「飲みやすくなった」「服用回数が減った」「使用感が良くなった」といった服薬コンプライアンスの向上につながる回答も見られた。

【ジェネリック医薬品を使用して悪いと感じたこと】

- ・ジェネリック医薬品への変更経験が有る方の約9割の方が「悪いと感じたことはない」と回答した一方で、「効かなかった（5.8%）」「体調が悪化した（3.7%）」と注意を必要とする回答も見られた。

【ジェネリック医薬品を使用したきっかけ】

- ・ジェネリック医薬品への変更の経験が有る方の使用したきっかけは、「薬局で勧められた（47.6%）」が最も多く次いで、「病院・診療所で勧められた（31.9%）」「希望カード（シール）を受け取って（22.0%）」となり、医療機関における勧奨等が影響していた。

【ジェネリック医薬品を勧められた場合の考え】

- ・「ジェネリック医薬品にする（42.3%）」「こだわりなし（24.5%）」であり、約7割の方が勧められた場合、ジェネリック医薬品への変更を示唆する結果であった。また、2割の方が、「医師・薬剤師に相談して決める」と回答しており、医師や薬剤師による丁寧な説明が重要であることが示唆される結果となった。

【ジェネリック医薬品を使用するにあたって重要だと思うこと】

- ・回答した381人の約7割の方が「効き目が同じこと」を選び、次いで5割の方が「薬代が安くなること」、4割の方が「副作用の不安が少ないこと」を選択した。

【ジェネリック医薬品を使いたくないと思った理由】

- ・回答した方19人の約5割の方が、「品質に不安がある」を選び、次いで約4割の方が「効き目が不安」「副作用が心配」を選択したほか、「期待ほど安くない」「良くないイメージがある」も2割の方が選択しており、ジェネリック医薬品の正しい知識の普及啓発により改善が期待できる結果となった。

【ジェネリック医薬品希望カード（シール）の認知度と使用経験】

- ・回答者400人のうち、ジェネリック医薬品希望カード（シール）を知っていると回答した人は約半数であり、そのうち、使用したことがある人は、112人と回答者の約3割であった。
- ・年代別で見ると、60～79歳で認知度及び使用割合が高いものの、それ以外の年代では希望カード（シール）を知らない方が半数以上という結果であった。

【10月から開始された長期収載品選定療養について】

- ・「よく知っている（4.3%）」「だいたい知っている（11.3%）」と回答した人は約15%であり、いずれの年代も「知らない」と回答した人が大多数であった。これは、アンケート実施時期が制度開始直後であったため、制度が十分に周知されていなかったものと示

唆された。

【バイオシミラーの認知度】

- ・バイオシミラーについては、「よく知っている(2.0%)」、「だいたい知っている(4.3%)」と認識している人が少なく、全ての世代で7割以上の方が知らなかった。

【ジェネリック医薬品等の利用や普及について、愛媛県で実施して欲しい内容】

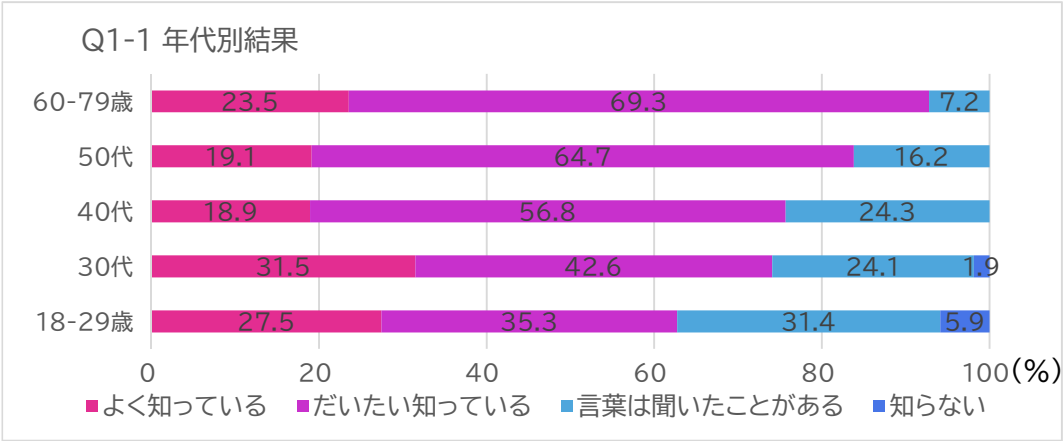
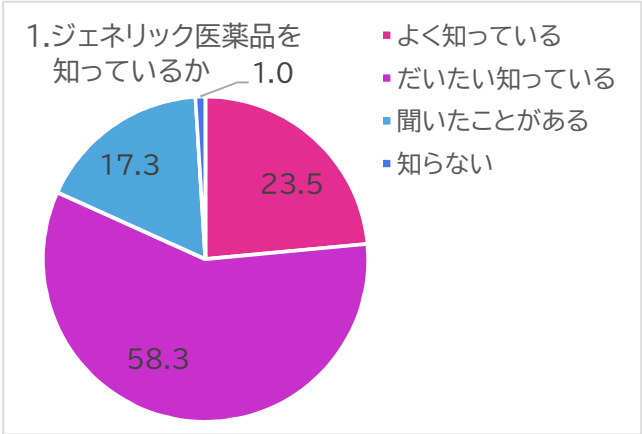
- ・最も多かった回答は「患者へのジェネリック医薬品に関する情報提供(44.3%)」であり、次いで「薬局や医療機関でジェネリック医薬品を選択できる体制づくり(36.0%)」であり、患者が医療機関を受診した際に、「情報を提示されたうえで、選択をしたい」という意図が現れる結果となった。

6 考察等今後の方策

- ・ジェネリック医薬品を「知らない」と回答とした年代別では、18～29歳が5.9%、30歳代が1.9%と若年層でジェネリック医薬品についての認知度が低い傾向にあったため、若年層に対する周知啓発も重要と示唆された。
- ・ジェネリック医薬品への変更については、医療機関等における勧奨が重要であることから当該機関向けの啓発資材作成が重要と示唆された。
- ・長期収載品選定療養は、ジェネリック医薬品がある薬で先発医薬品を希望した場合に、特別の料金を支払う仕組みであり、患者の自己負担が増えることからジェネリック医薬品使用推進の一助となるため、広く周知していく必要があると示唆された。
- ・ジェネリック医薬品の新目標で副次目標となっているバイオシミラーの使用割合及び金額シェアを達成するためにも、さらなる普及啓発が必要と考えられる。
- ・県民向けに発信する情報の工夫（年代別にする等）や医療機関への定期的な情報提供が必要と考えられる。

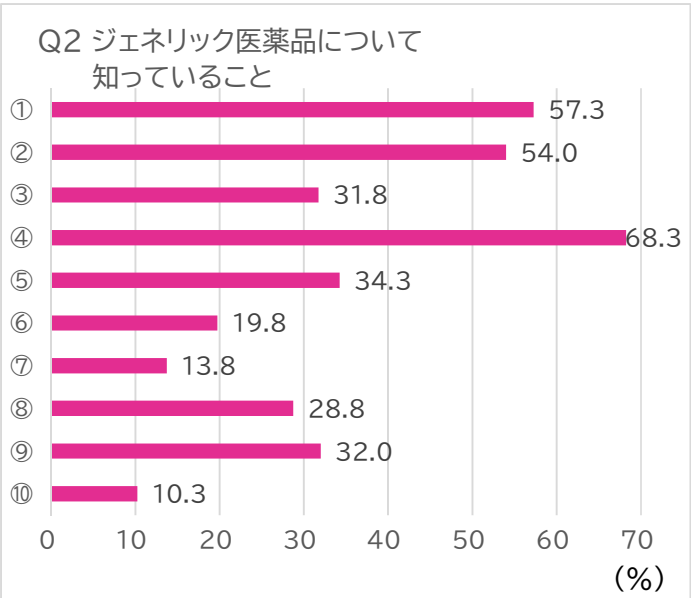
Q1:「ジェネリック医薬品」(後発医薬品)のことについてご存じですか。(n=400)

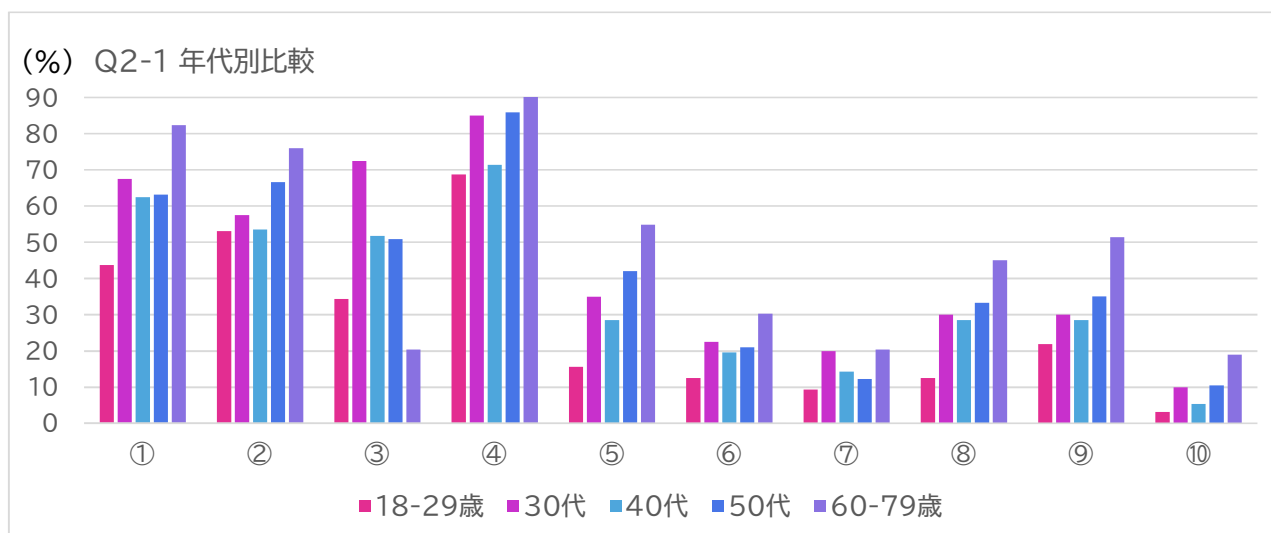
	人	割合(%)
よく知っている	94	23.5
だいたい知っている	233	58.3
聞いたことがある	69	17.3
知らない	4	1.0
合計	400	100.0



Q2:「ジェネリック医薬品」について知っている内容は何ですか？(n=327)

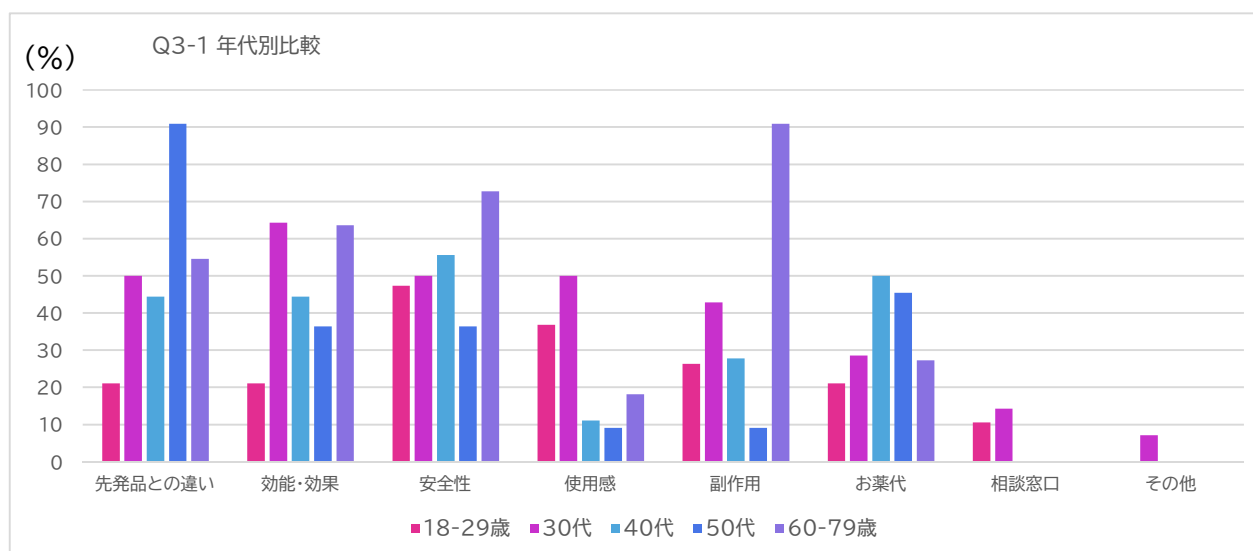
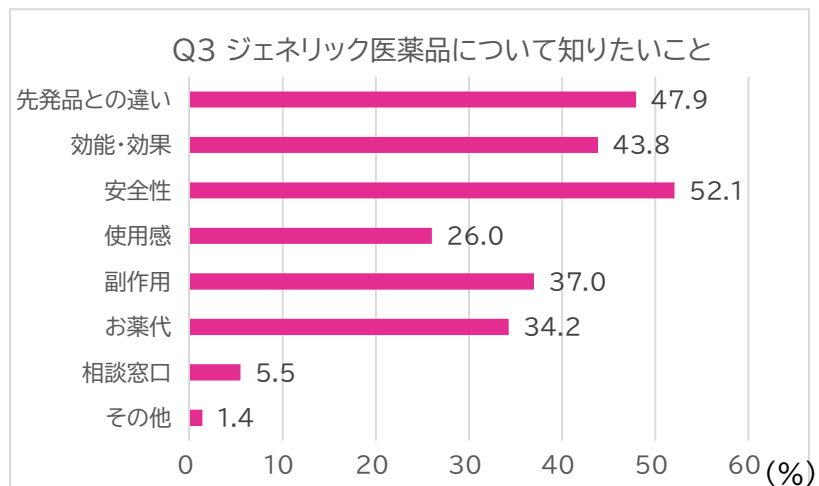
	人	割合(%)
先発医薬品の特許が切れたあとに、他のメーカーが製造し販売される薬①	229	57.3
先発医薬品と品質・有効性・安全性が同等②	216	54.0
国(厚生労働省)で承認された薬③	127	31.8
先発医薬品と比べて薬の価格が安い④	273	68.3
医療費が節約され、国民皆保険制度を維持するのに役立つ⑤	137	34.3
先発医薬品と添加物が異なる場合がある⑥	79	19.8
先発医薬品より色や形、味など、飲みやすく改良されているものがある⑦	55	13.8
薬によって、1つの先発医薬品に、複数のジェネリック医薬品がある⑧	115	28.8
ジェネリック医薬品が存在しない先発医薬品もある⑨	128	32.0
先発医薬品の製造販売が終了し、ジェネリック医薬品しかない場合もある⑩	41	10.3





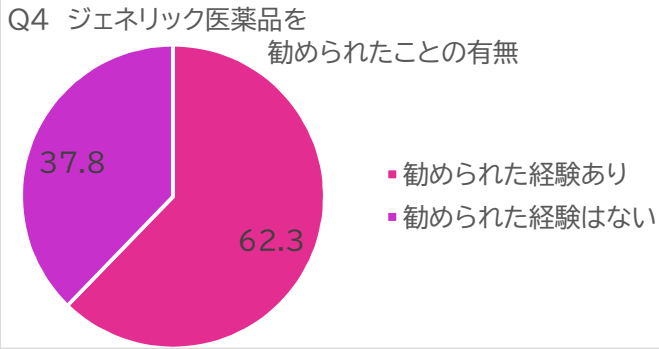
Q3:「ジェネリック医薬品」について知りたいことは内容は何ですか？(n=73)

	人	割合(%)
先発品との違い	35	47.9
効能・効果	32	43.8
安全性	38	52.1
使用感	19	26.0
副作用	27	37.0
お薬代	25	34.2
相談窓口	4	5.5
その他	1	1.4

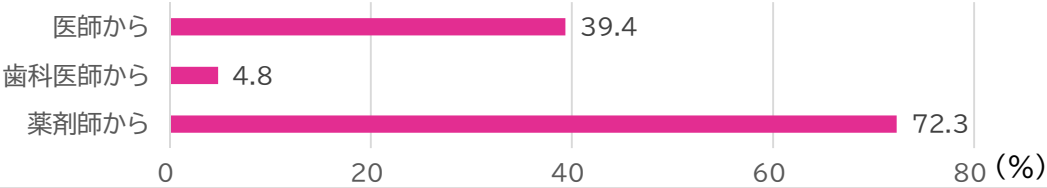


Q4:「ジェネリック医薬品」を医療機関で勧められた経験はあるか。(n=400,複数選択)

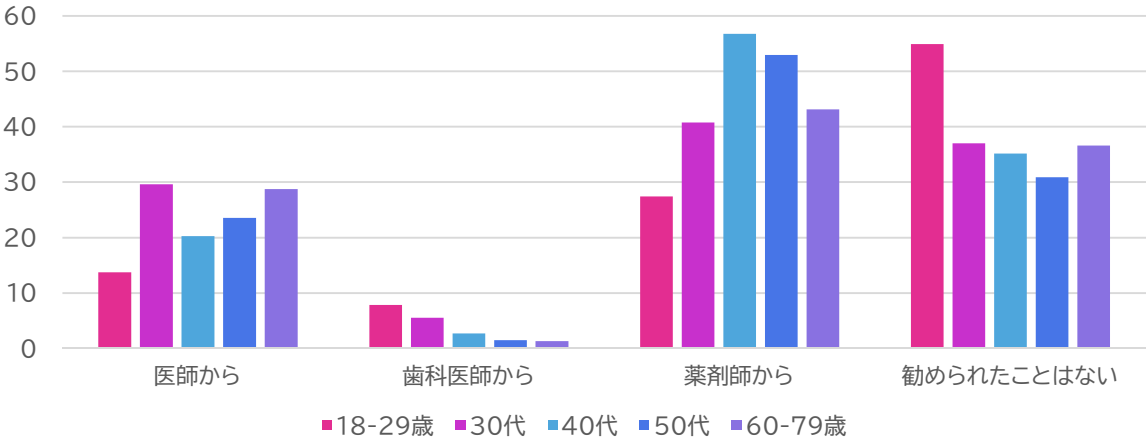
	人	割合(%)
医師から	98	39.4
歯科医師から	12	4.8
薬剤師から	180	72.3
勧められた経験あり	249	62.3
勧められた経験はない	151	37.8



Q4-1 経験ありの人は誰から勧められたか

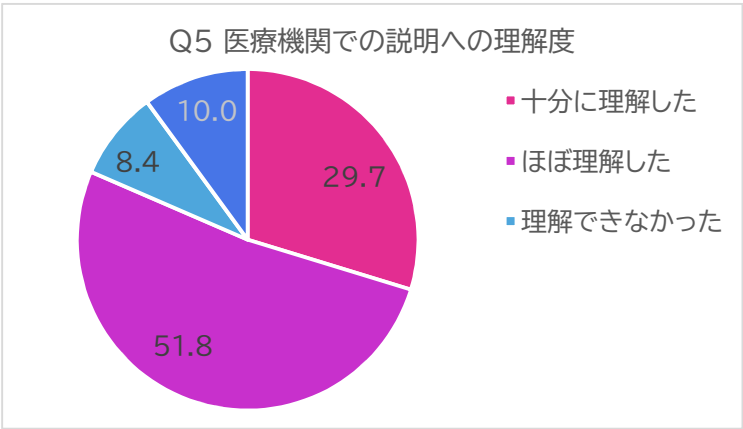


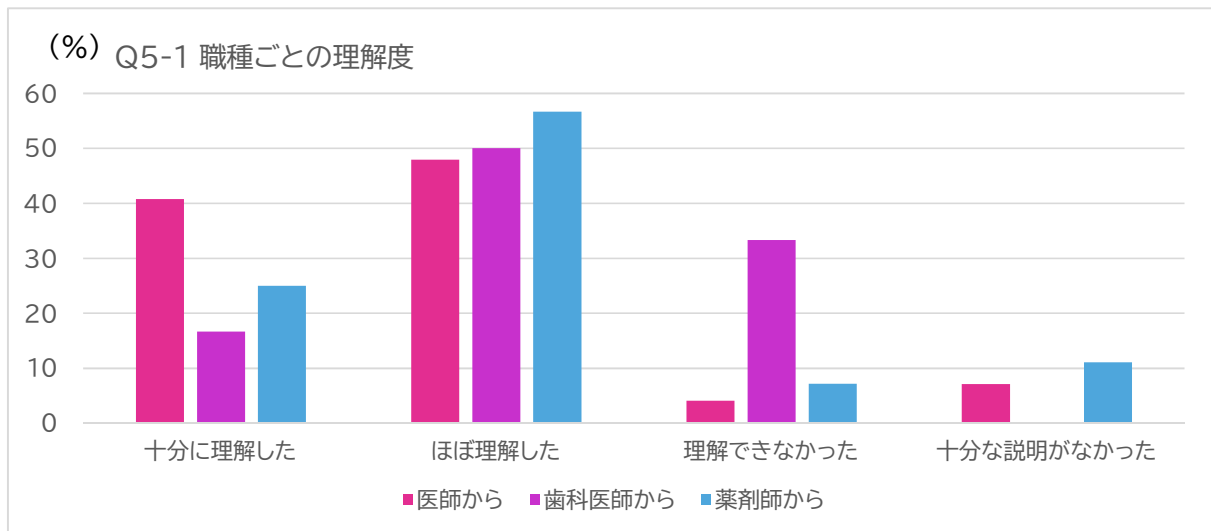
Q4-1 年代別比較



Q5:医療機関で勧められた際のジェネリック医薬品についての理解度(n=249)

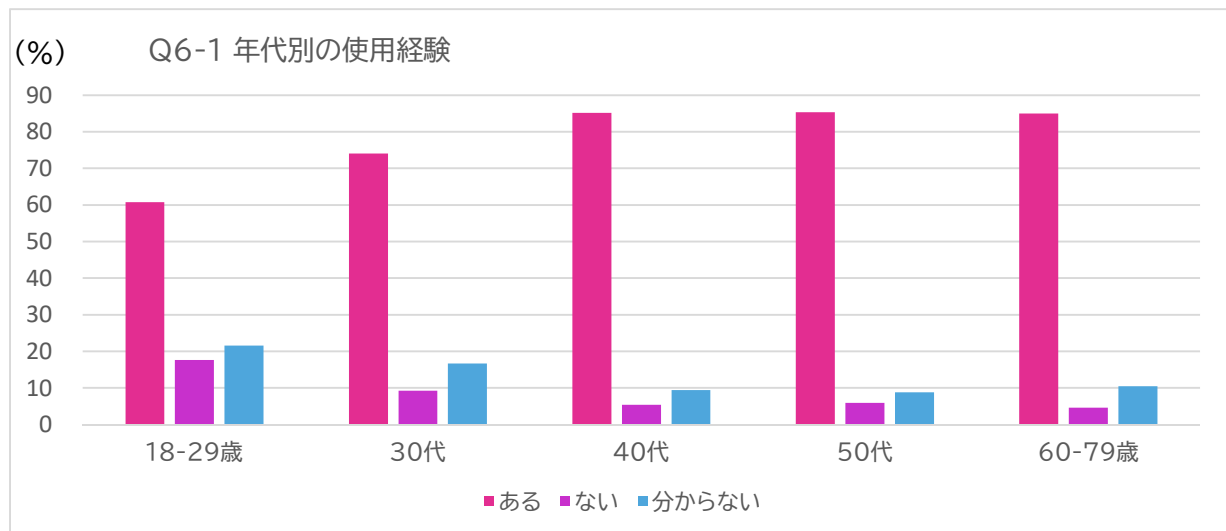
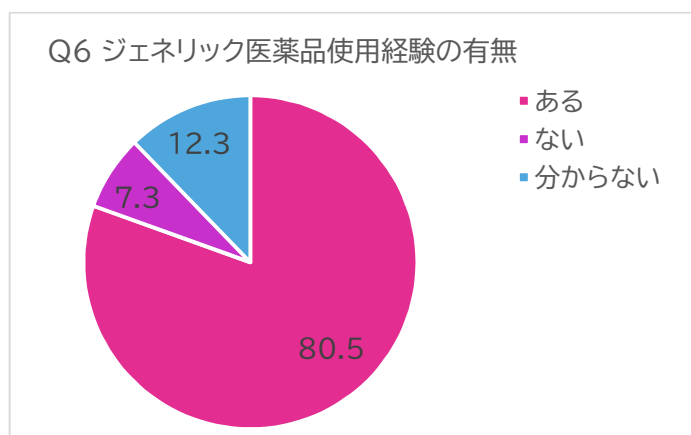
	人	割合(%)
十分に理解した	74	29.7
ほぼ理解した	129	51.8
理解できなかった	21	8.4
十分な説明がなかった	25	10.0
合計	249	100

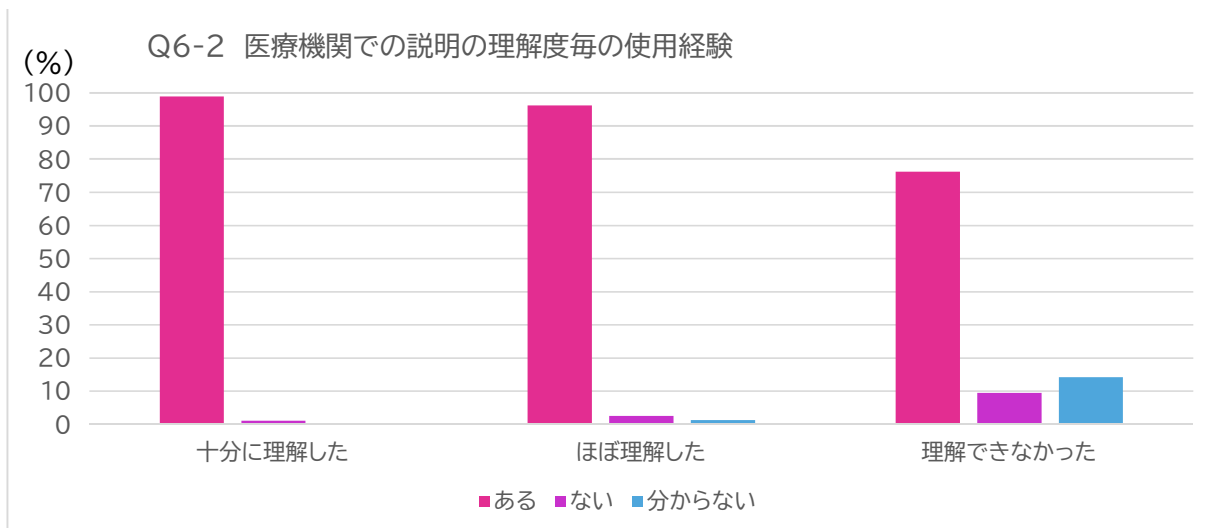




Q6:ジェネリック医薬品の使用経験(n=400)

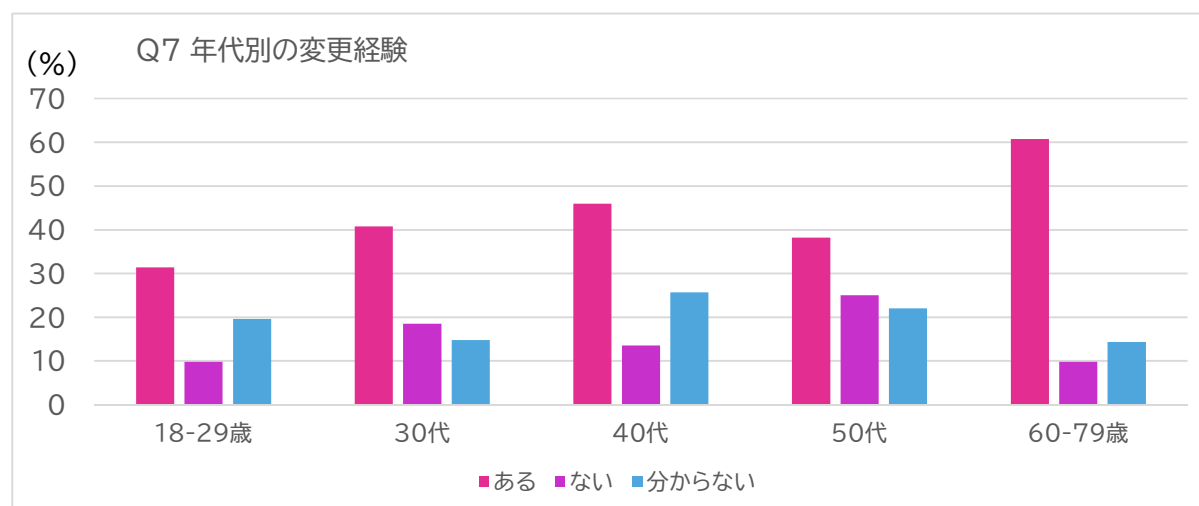
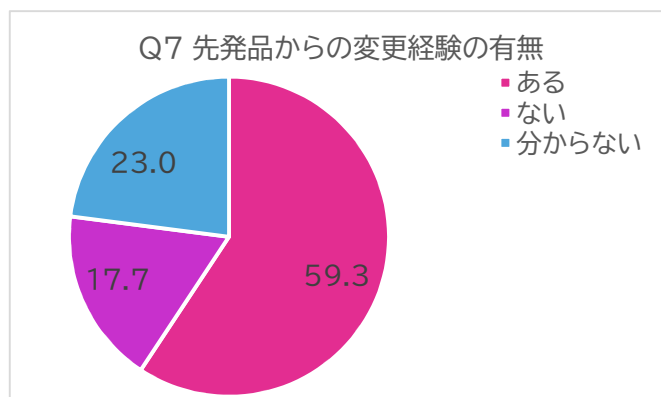
	人	割合(%)
ある	322	80.5
ない	29	7.3
分からない	49	12.3
合計	400	100

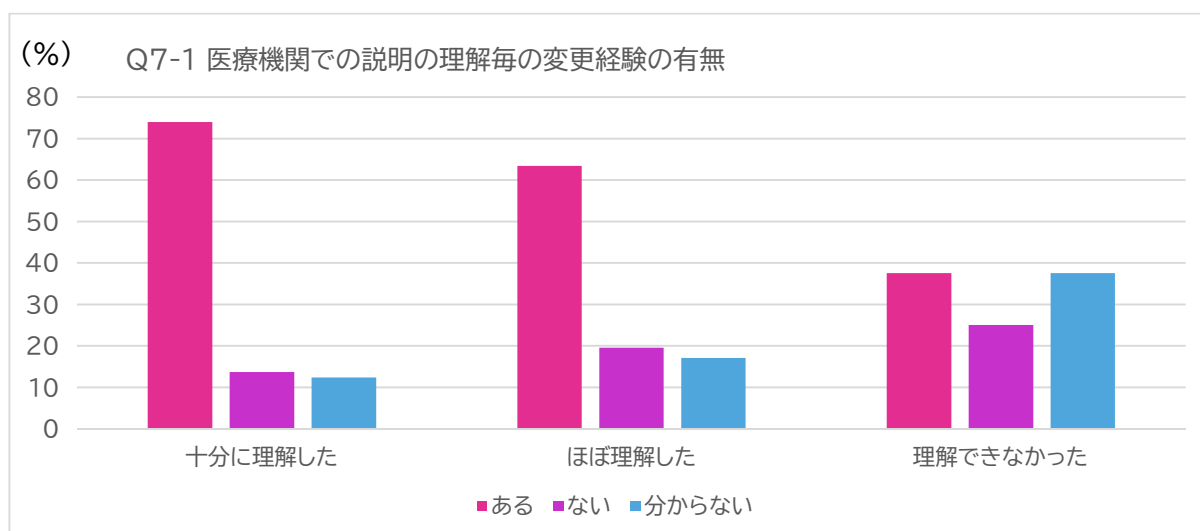




Q7:先発医薬品からジェネリック医薬品へ変更したことはあるか(n=322)

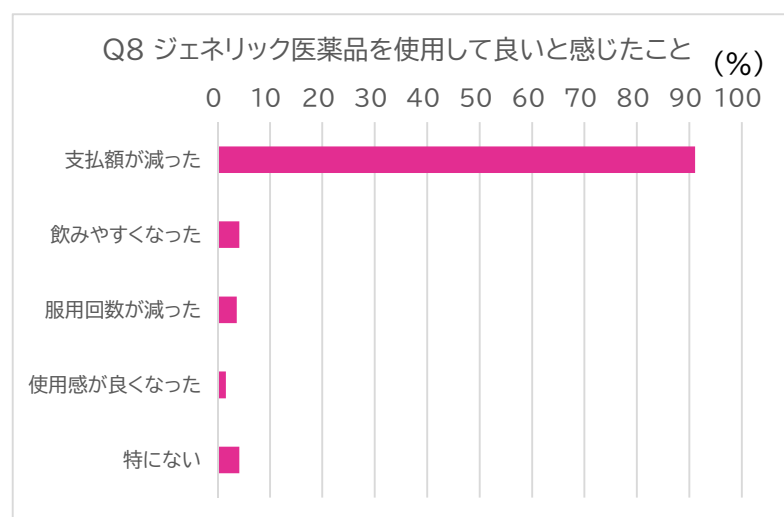
	人	割合(%)
ある	191	59.3
ない	57	17.7
分からない	74	23.0
合計	322	100





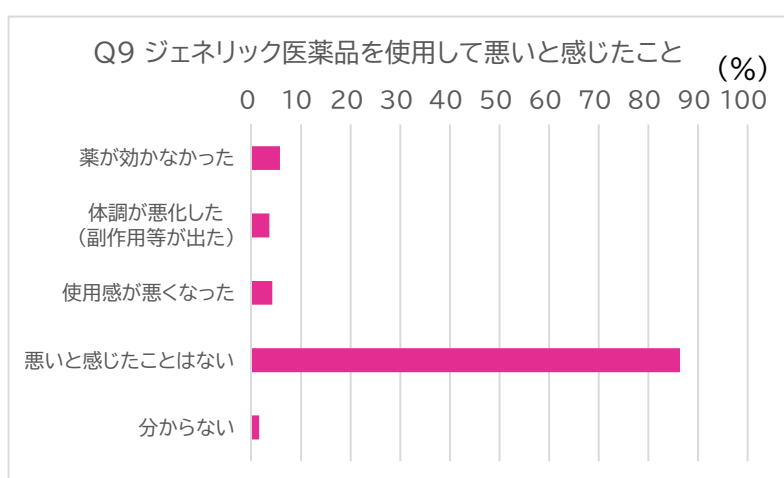
Q8:ジェネリック医薬品を使用して良いと感じたこと(n=191,複数選択有)

	人	割合(%)
支払額が減った	174	91.1
飲みやすくなった	8	4.2
服用回数が減った	7	3.7
使用感が良くなった	3	1.6
特にない	8	4.2



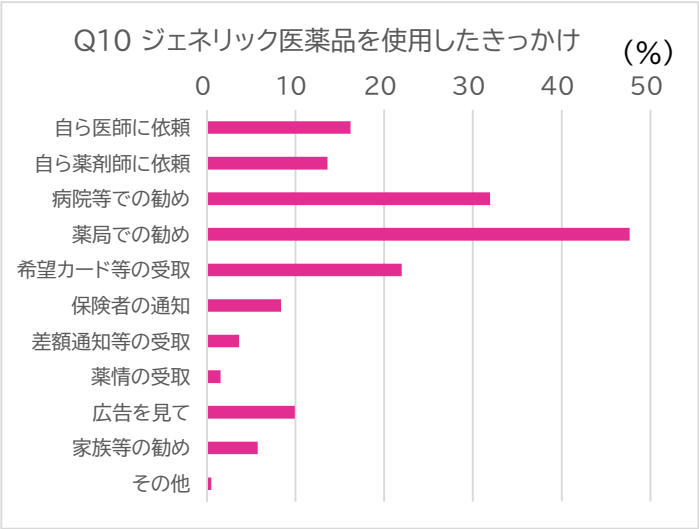
Q9:ジェネリック医薬品を使用して悪いと感じたこと(n=191,複数選択有)

	人	割合(%)
薬が効かなかった	11	5.8
体調が悪化した (副作用等が出た)	7	3.7
使用感が悪くなった	8	4.2
悪いと感じたことはない	165	86.4
分からない	3	1.6



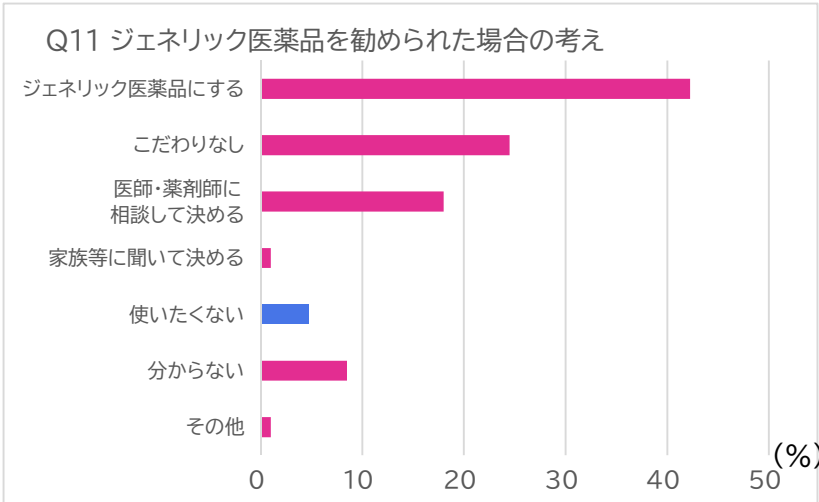
Q10:ジェネリック医薬品を使用したきっかけ(n=191,複数選択可)

	人	割合(%)
自ら変更を医師にお願いした	31	16.2
自ら変更を薬局(薬剤師)にお願いした	26	13.6
病院・診療所で勧められた	61	31.9
薬局で勧められた	91	47.6
希望カード(シール)を受けとったから	42	22.0
保険者からのお知らせを受け取って	16	8.4
ジェネリック医薬品軽減額通知(差額通知等)を受け取って	7	3.7
薬剤情報提供文書を受け取って	3	1.6
テレビCM等の広告を見て	19	9.9
家族・知人等からの勧め	11	5.8
その他(先発品が販売中止となった)	1	0.5



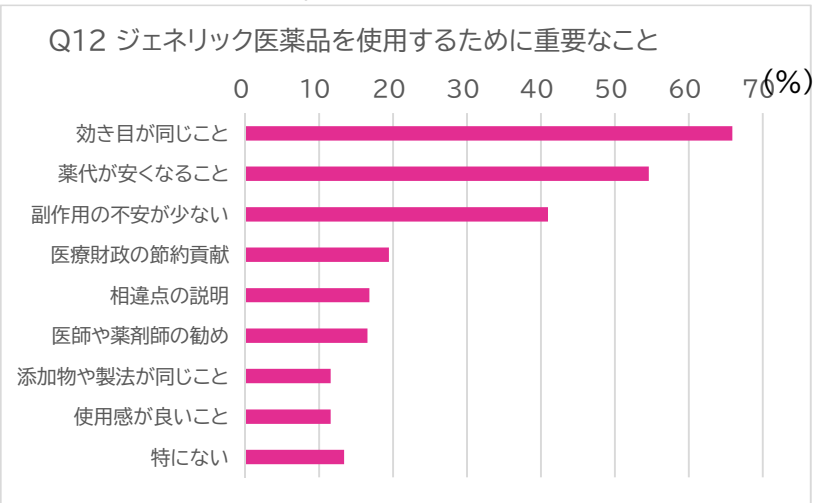
Q11:ジェネリック医薬品を勧められた場合の考え(n=400)

	人	割合(%)
ジェネリック医薬品にする	169	42.3
こだわりなし	98	24.5
医師・薬剤師に相談して決める	72	18.0
家族等に聞いて決める	4	1.0
使いたくない	19	4.8
分からない	34	8.5
その他(薬によって(3人)、アレルギーがあるので確認したい(1人))	4	1.0
合計	400	100



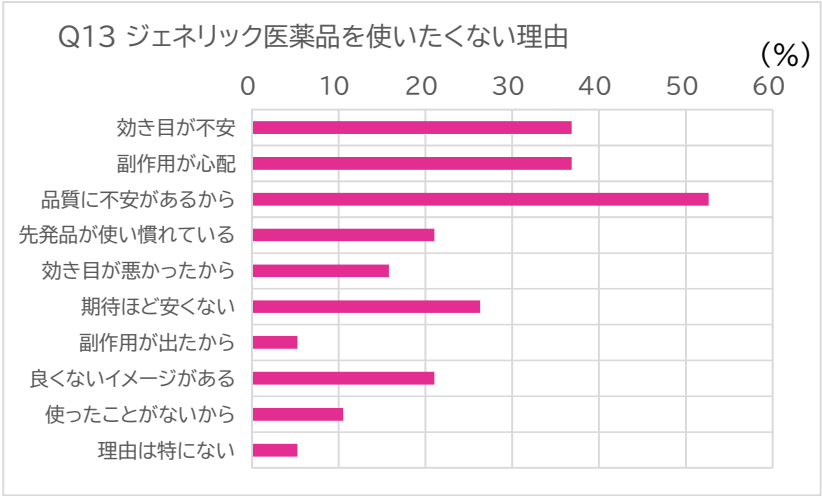
Q12:ジェネリック医薬品を使用するにあたって重要だと思うこと(n=381, 複数選択可)

	人	割合(%)
効き目が同じこと	251	65.9
薬代が安くなること	208	54.6
副作用の不安が少ない	156	40.9
医療財政の節約貢献	74	19.4
相違点の説明	64	16.8
医師や薬剤師の勧め	63	16.5
添加物や製法が同じこと	44	11.5
使用感が良いこと	44	11.5
特になし	51	13.4



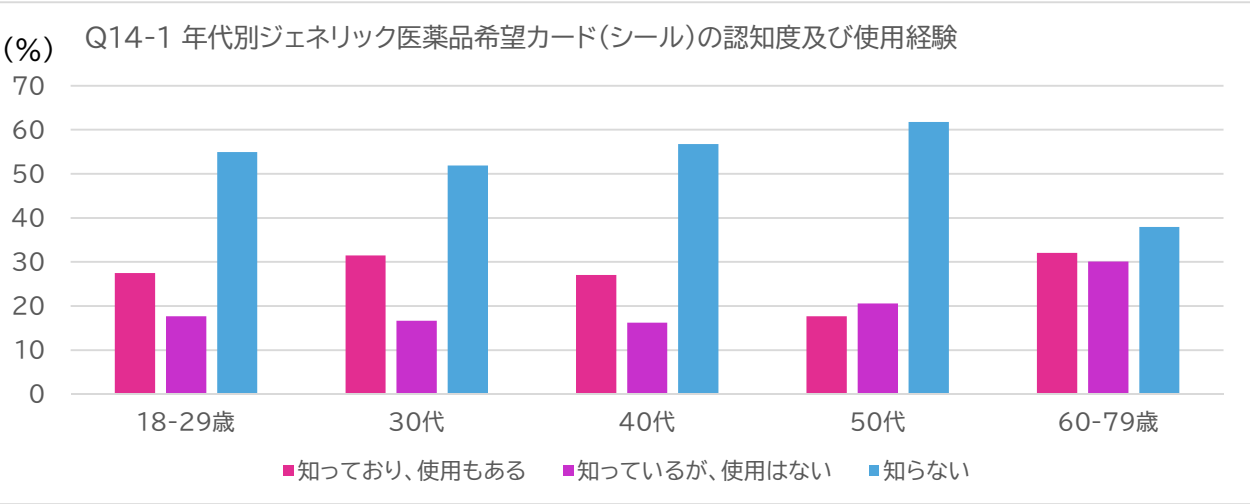
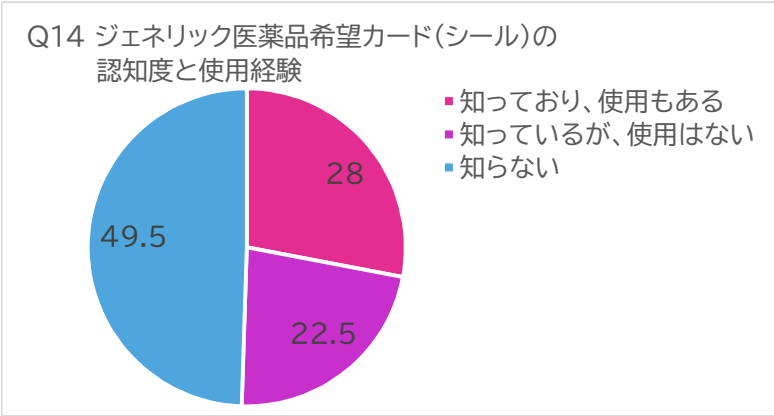
Q13:ジェネリック医薬品を使いたくないと思った理由(n=19、複数選択可)

	人	割合(%)
効き目が不安	7	36.8
副作用が心配	7	36.8
品質に不安があるから	10	52.6
先発品が使い慣れている	4	21.1
効き目が悪かったから	3	15.8
期待ほど安くない	5	26.3
副作用が出たから	1	5.3
良くないイメージがある	4	21.1
使ったことがないから	2	10.5
理由は特にな	1	5.3
手続きが面倒そうだから	0	0.0
勧めがない・相談しづらい	0	0.0
使用感が合わなかった	0	0.0
メリットがないから	0	0.0



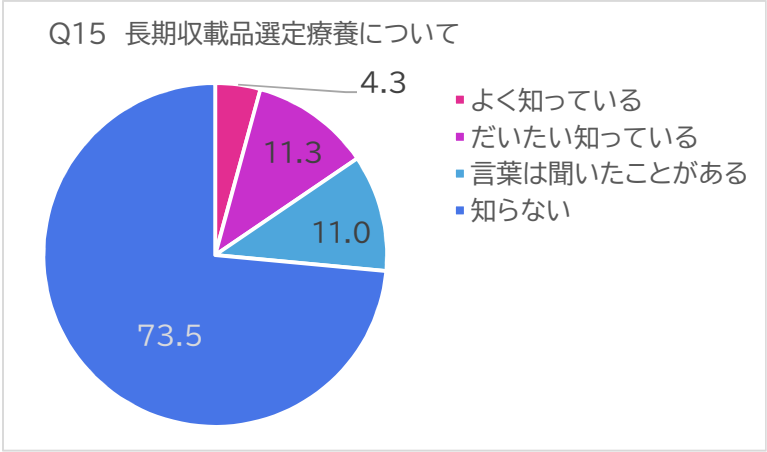
Q14:「ジェネリック医薬品希望カード(シール)」の認知度及び使用経験(n=400)

	人	割合(%)
知っており、使用もある	112	28
知っているが、使用はない	90	22.5
知らない	198	49.5
合計	400	100

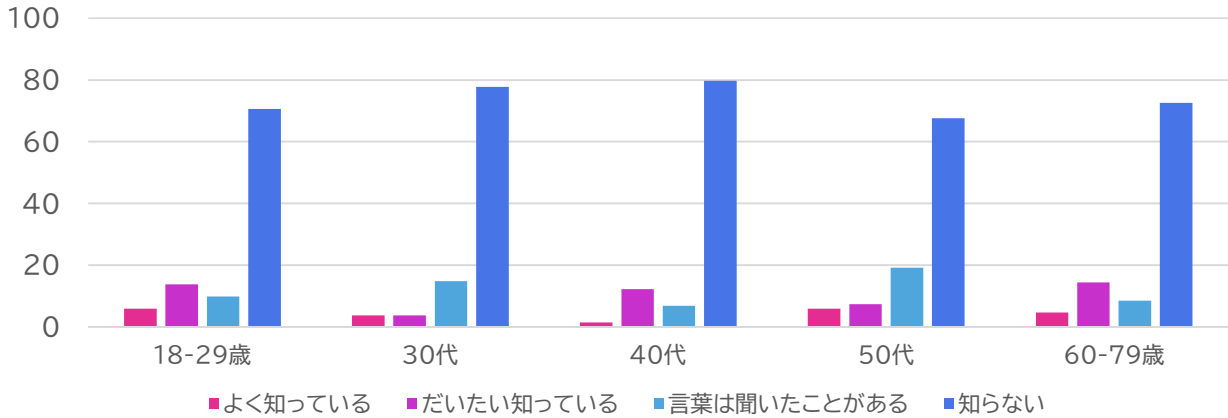


Q15:10月から開始された長期収載品選定療養について(n=400)

	人	割合(%)
よく知っている	17	4.3
だいたい知っている	45	11.3
言葉は聞いたことがある	44	11.0
知らない	294	73.5
合計	400	100

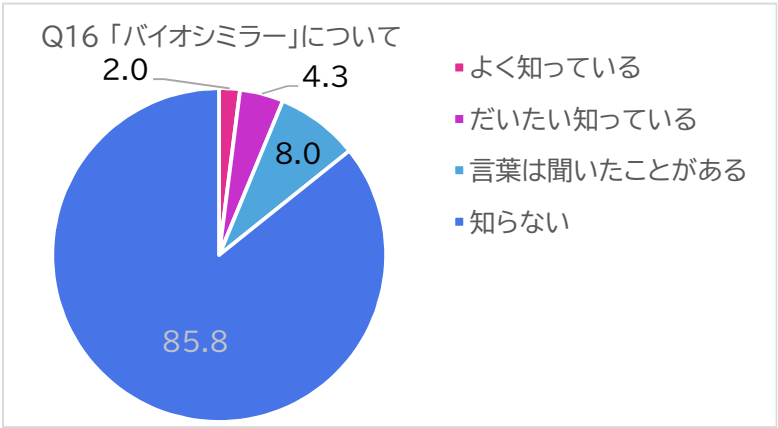


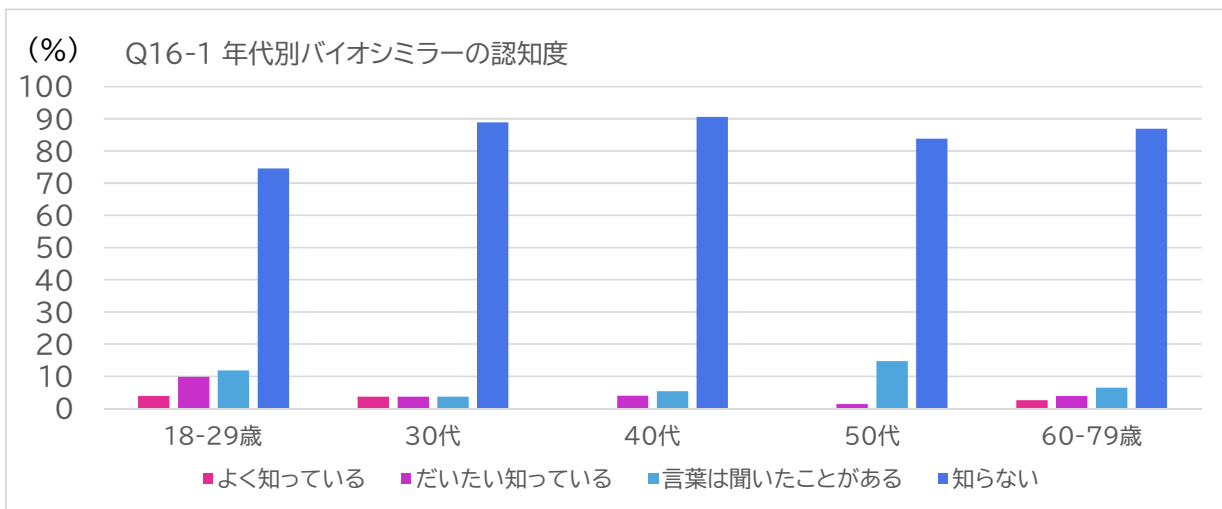
(%) Q15-1 年代別長期収載品選定療養についての認知度



Q16:「バイオシミラー」(バイオ医薬品の後続品)について(n=400)

	人	割合(%)
よく知っている	8	2.0
だいたい知っている	17	4.3
言葉は聞いたことがある	32	8.0
知らない	343	85.8
合計	400	100





Q17:ジェネリック医薬品等の利用や普及について、愛媛県で実施してほしい内容(n=400, 複数選択可)

	人	割合(%)
審査の仕組み等の周知	69	17.3
医療関係者へ情報提供	76	19.0
患者への情報提供	177	44.3
医療機関の体制づくり	144	36.0
特にない	142	35.5
その他	3	0.8

【その他の意見】
価格差の公表, 在庫の確保, 患者の意図を無視し、
GE医薬品へ変更する薬局に対する指導

